

東京マラソンの参加料改定の検討について<理事会資料より抜粋>

改定の必要性について

- 物価高騰に伴う運営費の上昇（警備費単価が直近5年で約24%上昇など）
- ランナーサービスの充実（仮設トイレ増設、給食の充実など）や国際的な認知の高まりによる外国人ランナー増加への対応（多言語対応スタッフ・表記の充実、更なる東京の魅力発信）

改定額（素案）について

2026年3月の東京マラソンから、以下のとおり参加料を改定

国内 16,500円 → **19,800円** 3,300円増
海外 160ドル → **230ドル** 70ドル増

- 改定による増収が約2億円となり、物価高騰などによる運営委託費の増分（約0.9億円）を補填
- 増収分活用によりランナーサービス向上（約0.3億円）や外国人ランナー対応（約0.8億円）を実施

（参考）各大会参加料比較

東京マラソン	16,500円
大阪マラソン	17,880円
名古屋ウィメンズマラソン	18,400円
横浜マラソン	19,425円
北海道マラソン	17,407円
東京マラソン（海外参加料）	\$160
TCS New York City Marathon	\$315
Boston Marathon	\$235
Bank of America Chicago Marathon	\$250
TCS London Marathon	\$195
BMW Berlin Marathon	\$225

※東京マラソン財団調べ（2024年10月時点）
※国内大会の参加料は事務手数料等を含みます。